

静岡県日中友好協議会ニュース

No. 114

2019. 3



世界農業文化遺産

最古の原木栽培技術 慶元のシイタケ

浙江省麗水市の「慶元のシイタケ文化」は2014年に「中国重要農業文化遺産」に選ばされました。慶元は世界最古のシイタケ原木栽培の発祥地と言われ、全国のシイタケ栽培、販売の中心となっており、「中国香菇之郷（中国シイタケの里）」と称されています。

約800年前、南宋の呉三公（シイタケ栽培の始祖）によって考え出された切込法（シイタケ切込法栽培技術は森林の木材を伐採して、その木材の表皮に斧で一定の密度と深さで切り込みを入れ、野生シイタケの胞子を植え付けるシイタケ原木栽培法であり、これは最古の食用菌原木栽培技術とされます。）によるシイタケ栽培が行われて以来、当地の農家は生態環境と豊富な森林資源を利用したシイタケ原木栽培を発展させ、今日に至っています。

特 集

データでみる県内の外国人（中国人）の動向

～県内人口：減る日本人、増える外国人～

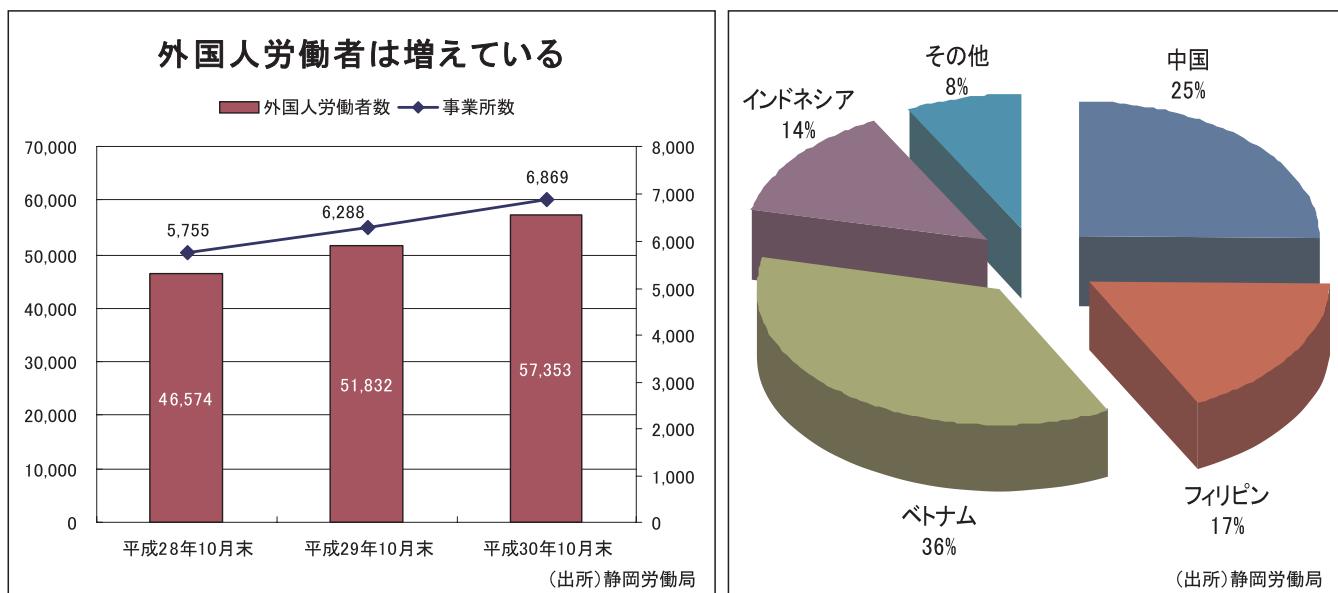
外国人労働者の受け入れ拡大を目指す改正出入国管理法が2019年4月に施行されます。深刻な人手不足を背景に、外国人技能実習生は労働現場の大きな戦力になっており、県内企業の関係者からも新制度への期待の声が聞かれます。一方、県内人口は2005年10月現在の3,792,377人をピークに減少し続け、2018年10月現在で3,656,487人（▲135,890人）となっています。

県内の外国人労働者数、過去最高

静岡労働局がまとめた静岡県の外国人雇用届出状況（2018年10月末時点）によると、県内の外国人労働者数は前年同期比10.7%増（5,521人増）の5万7353人、国籍別ではブラジル人が1万8524人（19.9%）と最も多く、次いでフィリピンが11,401人（19.9%）、中国が7,232人（12.6%）、ベトナムが7,072人（12.3%）の順となっています。県内の外国人労働者数は過去最高、6年連続増となり、人手不足感が高まっていて、県内外国人の働き手のニーズが益々高まっていることが顕著になってきています。

都道府県別では、東京、愛知などに次ぎ全国で8番目、外国人を雇用する事業所数も6869カ所と9.2%増え、6年連続で増加しました。

事業所の業種別では、製造業が36%を占め、卸売・小売業、宿泊業・飲食サービス業が続きました。事業所の地域別では西部が45%を占めて最も多く、中部は27%、東部は28%、人数でも西部30,301人と、5割を超えています。



外国人雇用事業所数及び外国人労働者数

「技能実習」資格、国別外国人割合

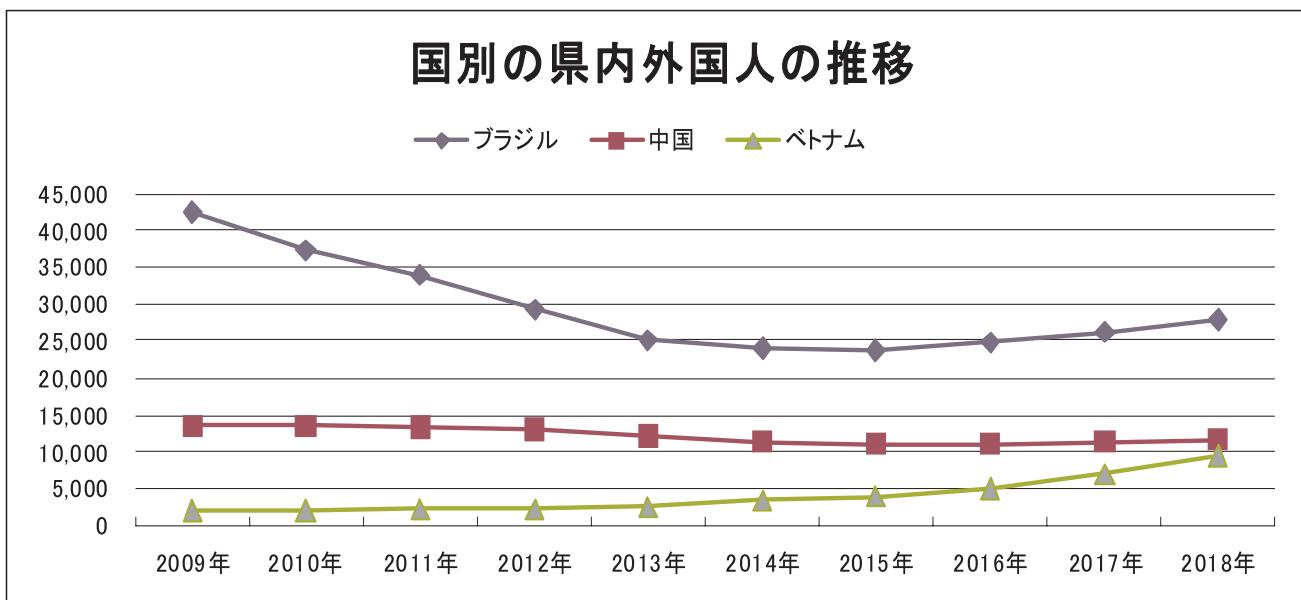
県内の在留資格「技能実習」、全体の20.9%

在留資格「技能実習」では11,989人、全体の20.9%を占め、その内、国籍別ではベトナム4,350人(36.3%)、中国が3,035人(25.3%)、フィリピンが2,046人(17.0%) インドネシア1,614人(13.5%)の順となり、4か国で92%を占めています。また、産業別では「製造業」は24,936人(43.5%)を占め、その内、在留資格「技能実習」では8,067人(「技能実習」の67.3%が製造業)、その他に業・林業が343人、建設業が1,411人、運輸業が343人、卸売・小売業が736人、宿泊・飲食・サービス業250人、生活関連168人、教育関連1人、医療福祉5人、その他524人。

「社会増加」に転じた県内人口、外国人転入が増える

自然動態増減(出生者数-死亡者数)と社会動態増減(転入者数-転出者数)から県内人口を見ると、わが国の少子高齢化・人口減少と同步調で、自然動態増減は減少の一途にあり、社会動態増減は外国人の転入超過による社会増加に転じ、県内人口の減少化を緩やかにしています。都道府県別の外国人の社会増加数(資料:総務省「2017年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」)では、静岡県は+5,577人になり、東京、愛知などに次ぎ全国で8番目に多い人数です。

県内の外国人人口(資料:静岡県「静岡県における外国人の住民基本台帳人口の調査結果」)では、2018年12月末現在、89,341人、市町別では、浜松市(24,336人)、静岡市(9,838人)、磐田市(7,759人)、富士市(5,488人)、掛川市(4,299人)の順となり、西部の市町が突出しています。国籍別では、ブラジル27,904人(31.2%)、フィリピン16,526人(18.5%)、中国11,581人(13.0%)、ベトナム9,259人(10.4%)、韓国又は朝鮮5,145人(5.8%)、ペルー4,414人(4.9%)、インドネシア3,301人(3.4%)、ネパール1,495人(1.7%)、スリランカ1,029人(1.2%)が上位10か国ですが、10年前と比べると、ブラジルは53.7%減、フィリピンは39.5%増、中国は9.3%減、ベトナムは477.6%増となっています。



シリーズ クローズアップチャイナ

改革開放40年『今』、『昔』 海の玄関口

世界の港と結ぶ港湾に成長

1978年当時、中国全土の港湾ターミナル停泊バースは735ヶ所、その内1万トン級以上船舶が停泊できる133ヶ所しかありませんでした。1990年代以降になって、港湾建設が加速され、近代的な深水型、大型化、専用化バースの整備が進みました。2017年、港湾ターミナル停泊バースは27,778ヶ所、1万トン級以上船舶用は366ヶ所、1978年に比べそれぞれ37.5倍と17.8倍になりました。



中国科学院予測科学研究センターが発表した「2018年世界トップ20コンテナ港湾予測リポート」によると、2018年の港湾別コンテナ取扱量は首位が上海、2位がシンガポールという順位は昨年と同じですが、寧波－舟山港が4位から3位に浮上し、昨年3位の深圳港は4位となり、また香港港は順位を5位から7位に下げ、釜山港と広州港がそれぞれ5位、6位に上昇しました。

コンテナ取扱量上位3港

第1位・上海港：上海港は、8年連続で世界の港湾コンテナ処理量において1位の地位を維持していました。上海港・洋山港エリア第4期ターミナルは世界最大の自動コンテナターミナルです。

第2位・寧波－舟山港：寧波－舟山港の年間貨物取扱量は「10億トン」を超え、唯一の「10億トン」を超える大型港の地位を維持し、世界の港湾ランキングは「10回連続第1位」を達成し、年間コンテナ取扱量では2600万TEUを超え、世界の港では上位3位にランクされ、全国の港では第2位にランクされました。

第3位・深圳港：深圳港は長年にわたり、コンテナ取扱量で国内第2位、世界第3位を維持していました。2018年のコンテナ取扱量は2,570万TEU、国内第3位、世界第4位のコンテナ処理量を達成しました。

寧波港・北侖港と上海・宝山製鉄

「大地の子」（作家・山崎豊子）でモチーフとして登場する上海宝山製鉄所の建設は、新中国誕生以来、最大の国家プロジェクトとして、「改革・開放」政策後の中核プロジェクトであり、また日中協力の象徴として1978年に着手されました。

上海宝山製鉄所の建設過程で、輸入鉄鉱石を大型外航船から積み替える為の大規模な施設が寧波郊外の北侖港の建設が決まり、この建設にも日本が協力しています。また、この時期、石炭輸入のために、寧波港・鎮海港でのふ頭建設が始まり、1978年は今日の寧波港発展の礎となりました。

中国最前線：今日のキーワード

「中国製造2025」・智能網聯汽車

ICV（インテリジェント・コネクテッド・ビークル）智能網聯汽車

中国では自動運転車など次世代の車を「ICV（インテリジェント・コネクテッド・ビークル）智能網聯汽車」とみています。AI=人工知能が運転を担う車やインターネットとつながるコネクテッドカーなどを総称した呼び名です。中国政府はICVを走らせる試験区として、北京、上海、重慶、浙江省の杭州、吉林省の長春、湖北省の武漢という6つの主要都市を指定しています。また、全国で20以上のICV試験モデルエリアが既に計画、または実施段階にあります。

「インフラ協調型」をめざす中国

グーグルなどが進めてきた自動運転車は「自律型」であり、これはクルマに取り付けたカメラやセンサーを中心に、現在人間が行っている信号や標識などの情報収集・分析する機能を、AIで行おうとするものです。それに対して、交通システムから提供される詳細な交通情報網を地域全体に広げ、その情報をもっと利用し、AIの分析・判断能力を上げようとするものが「インフラ協調型」であり、中国はこれを目指しています。

モデルエリア

1、国家智能網聯汽車（上海）試点示範区（上海市嘉定区安亭鎮）

指定域内にICV 5平方キロのICVテストコースを設け、公園内の試乗走行体験（長さ2.5キロ）を始めており、近い将来、自動運転シティを目指しています。

2、浙江智能汽車智慧交通応用示範区（杭州市西湖区、杭州市雲栖小鎮、嘉興市桐鄉市）

中国電子商取引最大手の阿里巴巴集団（アリババグループ）は杭州市から自動運転車を含む「インテリジェント・コネクテッド・ビークル（ICV）」の公道での路上走行試験に必要なナンバープレートの交付を受け、本格的な取り組みを始めます。





【周恩来】



【浙江省紹興市にある周恩来記念館】

中華人民共和国が建国された1949年10月1日以来、死去するまで一貫して首相をつとめ、毛沢東の信頼を繋ぎとめた周恩来（1898－1976年）。1972年に日本国首相の田中角栄（当時）と日中共同声明に調印したことでも知られています。

紹興、淮安、天津

周恩来は、1898年3月5日、江蘇省淮安県に生まれました。周家は元々魯迅と同じ浙江省紹興市を原籍地とする旧家で祖父の代に江蘇省淮安に移ったと言われます。周恩来は「自分は紹興人である」と度々発言しており、特別のおもいれがあったことがうかがえます。

青年期、清朝が倒れ、革命の息吹が漂い、天津の南海中学を卒業後、1917年に日本へ留学し、東亜高等予備高校などに通いました。その後1919年に帰国し、政治活動に身を投じます。南海大学卒業後、祖国を救う道を探すという強い希望に燃えフランスへ留学し、急速に共産主義思想に目覚めていきます。1976年の死去まで中国の指導者として活躍し、特に外交を中心に大きな役割を果たしました。



松本亀次郎と周恩来

周恩来が日本に留学した頃、日本を通じて西洋の近代文化を学ぼうとする、中国の若者が大勢やってきました。中国人留学生に対する日本語教育に生涯をささげたのが松本亀次郎です。掛川市出身の松本亀次郎は、中国人留学生のために設立された宏文学院で日本語教師をした後、37歳の時、1914年に東京で中国人留学生が学ぶ「東亜高等予備高校」を設立し、約40年にわたって中国人留学生約2万人に日本語を教え、その教え子の中には、中国初代首相の周恩来や文豪の魯迅なども含まれ、特に周恩来は自宅へ頻繁に招くほど親密な関係だったとされています。

天津市にある「周恩来鄧穎超記念館」の元館長から、松本亀次郎の子孫に打診があったことから始まり、今年3月、関係者の尽力により、松本亀次郎と周恩来の等身大のろう人形が掛川市に寄贈されることになり、掛川市立大東図書館に設置されています。

今時の中国の学生

留学する学生達へ、日中友好の架け橋に

寧波大学外国語学院外籍教師
(静岡県日中友好協議会 交流推進員)

横井香織



浙江省の大学では、春節（旧正月）前後の1か月ほどが冬休みです。冬休みが終わると留学予定の3年生や大学院生は、留学の最終的な手続き、準備に追われます。寧波大学外国語学院日本語学科は、日本全国の大学と交換留学の協定を結んでいます。それは北から岩手大学、宇都宮大学、東京外国语大学、関西大学、兵庫教育大学、徳島大学、広島大学、筑紫女学園大学などで、毎年、25名前後の学生が1年間、日本に留学します。

留学予定の学生たちに、日本で何をしたいのか聞いてみました。するとすぐに日本語や日本文化を本格的に学びたい、と返ってきました。体験したいことや行きたいところは、千差万別です。茶道や華道など日本の伝統文化に関心のある学生、日本中を旅行したい学生、和食やスィーツを味わいたい、温泉に入りたい、花火大会へ行きたい、アルバイト、アイドルのコンサートなど、興味は尽きません。共通しているのは、誰もが目的をもって日本にやってくることです。

昨年、宇都宮大学に留学した唐さんは、1年間馬術部に所属し、部員として活動しました。授業が終わるとすぐ厩舎へ駆けつけ、馬の世話や競技会に向けて練習に励むという生活を送りました。彼女以外、部員は日本人ですから、そのような環境に身を置いたことで、生きた日本語を皮膚感覚で学ぶことができました。また、日本の若い世代の生活スタイルを、間近で見聞きし、体験もしました。宇都宮大学にやってきた各国の留学生との交流の機会もあり、彼女は留学という機会を最大限に活用し、充実した1年を過ごすことができました。このような体験談は、留学を希望する後輩にとって、大きな刺激となります。

1年間の留学生活を終えると、学生生活は残るところ半年です。留学経験者の中には、日本の大学院へ進学を希望する学生や、日本企業への就職を考えている学生もいます。学生たちは、日本で学び生活した経験をもとに、日中友好の架け橋になってほしいと思います。



【留学生のハロウィーンパーティー】



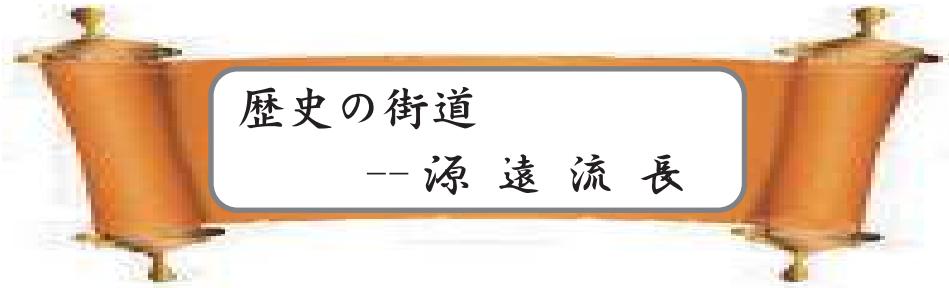
【宇都宮大学に留学の唐さん、お気に入りの馬と】

プロフィール：横井香織さん

学歴：静岡大学人文学部卒業、兵庫教育大学大学院博士課程修了、博士（学術）

職歴：静岡市内の公立中学校、県立高等学校に30数年間勤務

2016年に中国へ渡り、中国海洋大学を経て、現在、寧波大学外国語学院外籍教師



歴史の街道

-- 源 遠 流 長 --



(司馬光像)

久能山東照宮、司馬光とのゆかり

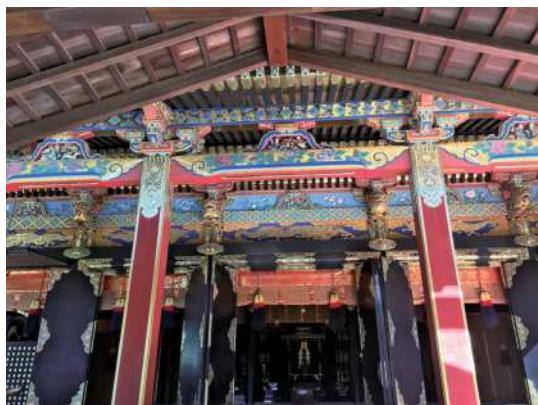
徳川家康公を祭る久能山東照宮

徳川家康の遺骸が久能山に祀られ、徳川秀忠の命により創建され「久能山東照宮」の社殿は本殿と拝殿の間を石の間でつなぐ権現造りという様式で作られ、豪華な装飾や彫刻がほどこされ、拝殿の正面の梁の上に、かえるが股を広げたような形をした墓股（かえるまた）に装飾があり、その中に中国の三賢人（孔子・老子・莊子）や「司馬温公の瓶割り」の故事を彫った彫刻があります。この命の尊さを解く中国の故事は戦国時代に終止符を打ち、平和な時代を築いた家康の遺志と通じるものがあります。

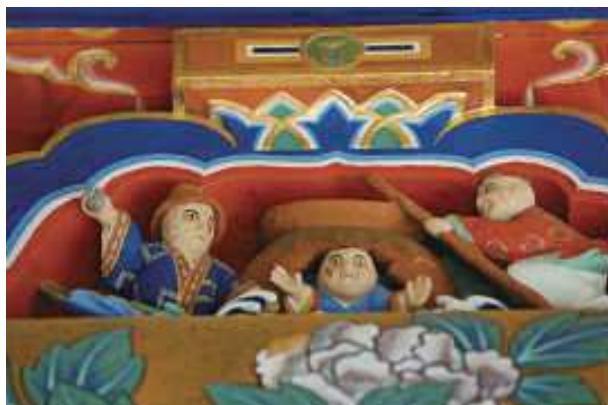
司馬光の逸話「甕を割って友を助ける」

司馬光（1019年～1086年）：北宋時代の政治家、文学家。司馬光は善良で礼儀正しく、博学多才でしたが、一本気でこびへつらない性格であったことでも知られています。20歳の時、一発で科挙の試験に合格した司馬光は6歳の時から父の司馬池について学問を学び、7歳で春秋左氏伝を暗唱して周囲を驚かせました。このように知識があるだけでなく、胆力と識見にも優れていた司馬光は、神童とも呼ばれていました。

司馬光の幼年期の逸話：司馬光7歳の時、裏庭で友達と遊んでいたところ、一人の友達がふざけて大きな甕の縁の上にのぼり、足を踏み外して水の入った甕の中に落ちてしまいました。他の友達はあわてて泣き叫び、大人を呼ぼうとしましたが、沈着冷静な司馬光だけは知恵をはたらかせて大きな石を拾い、思い切り甕にぶつけて割り、溺れていた友達を助けました。



(久能山東照宮の拝殿)



(甕割りの彫刻)

発行所：静岡県日中友好協議会
発行人：栗原 績

静岡市葵区追手町44-1（静岡県産業経済会館1F）
TEL (054) 255-8111